

しょうぼう 消防も…のひと

消防団員 = 発災時に市民を守る使命を
帯びた隣人(りんじん)



杉本 大輔 さん

第4方面隊長
(消防団歴20年、塚原新田在住)

塚原では、親同士のつながりもあって、多くの長男が消防団に入団します。約20年前、自分にも誘いの声がかかりました。地域のつながりが強いところが、塚原の良いところだと思っています。

製茶の仕事をする傍らで休みの日は、子どもの野球の応援をしたり、海釣りをしたりします。

野球の試合で審判をすることもあり、子どもたちとのふれあいを楽しんでいます。チームの子の中には、消防にあこがれを抱いている子もいるかもしれませんね。

釣りは、下田や沼津に行きます。もう少しするとワラサ(体長80cm以下のブリ)の季節なので、とても楽しみです。

市内での火事などがなく、消防団の出番のない平和が続くことを祈っています。

COVER PHOTO

表紙
三島馬鈴薯のGI登録を記念し、7月1日に三嶋大社で行われた「いもフェス」でコロックをほおばる子どもたちです。
全国のご当地コロックが、楽寿園などに大集合するイベントは、9月23日(土・祝)開催です。



CONTENTS

目次

- 2 全国コロッケフェスティバル
- 4 消防も…の人
- 5 広島市平和祈念式派遣報告
- 6 坂小学校で学びませんか
- 7 みしま情報便 (information)
ハロウィン・パレード
2017/ 市民芸術祭 / ママと
プレママ地域デビュー講座
/ 三島の魅力を動画で発信
ほか
- 10 お知らせアラカルト
- 14 図書館からのお知らせ
- 15 いきいき健康
- 16 スポーツ情報
- 18 地域コミュニティ連絡会
- 20 第9回三島バル&三島スカイ
ウォークイベント

広島市平和祈念式 中学生参加報告

☎ 行政課 983・2615

市では、平成7年度から毎年8月6日に行われる広島市平和祈念式に市内の中学生を派遣しています。

三島の将来を担う若い人たちが戦争の悲惨さや平和の尊さについての思いを広く伝えられる人になってほしいとの願いが込められています。今年の参加者8人の感想文の一部を抜粋、要約の上、紹介します。

戦争とは無縁だという錯覚



錦田中学校3年
安斎 優

辞書で「平和」を引くと「戦争がなく、世が穏やかな状態。また心配やもめごとの無い様子」とあるが、戦争の無い穏やかな生活も核兵器が存在するならば平和と呼べない。今なお平和は未完成だと伝えることが、この国の人の使命だと思う。

私たちと同じ人々が



北上中学校1年
平野 花音

原爆により人々の世界は地獄へ一変してしまいました。時計や衣服などの展示品一つ一つが当時の方々の苦しみ、悲しみを教えてくれました。

平和公園にはさまざまな団体が集まっていて、平和を願う気持ちには皆同じなのだと思います。

誰もが平和を願っている



南中学校3年
齊藤 千紘

被爆前後の広島を比較した写真を見ると、心が痛みます。このにぎやかな町が一瞬で焼け野原になってしまったことを思うと、見るのがつらくなるほど悲しくなりました。広島で学んだことを友達や家族に伝えていきたいと思っています。

「過去のこと」ではない



中郷西中学校2年
河野 もも

全世界の人が核はいけない、と認めない限り、苦しむ人は増え続けます。原爆は日本だけのことで、過去のことではないのです。現時点で核は世界に1万5000もあると言われています。世界から核がなくなるまで、廃絶を訴えていきます。

人間の怖さを知った



北中学校1年
石田 敦也

松井広島市長は、「きのこ雲の下で何が起こったかを知り、被爆者の核兵器廃絶の願いを受け止め、世界中に『共感』の輪を広げていただきたい」と話しました。ぼくはまずクラスみんなに広島市の原爆のことを話したいと思っています。

壊れた平和に尊さを見る



山田中学校1年
日吉 爽一郎

原爆投下前の広島には平和があった、ということを感じました。それが原型を留めない姿となり、我々がそれを見ることで平和の尊さを知る。これはとても悲しいことです。世界の核競争が一刻も早く終わってほしいと強く感じました。

海外からの関心も



中郷中学校2年
長篠 美里花

平和祈念式典には驚くほどの人が参列しており、日本だけでなく海外にも原爆に関心を持つ人が多くいることを知りました。テレビではわからない戦争の悲惨さや平和の大切さを、友人を始め多くの人々に伝えていきたいと思っています。

当たり前の日常に感謝



日大三島中学校3年
上原 大

広島市の想像を絶する現実が胸が痛み、ここでの体験や悲しい気持ちを絶対に忘れないと決意しました。また、ご飯を食べ、学校に通える当たり前の日常があることへの感謝と、唯一の被爆国として核の廃絶を世界に訴える必要を感じました。

※感想文の全文は市ホームページにて公開